

鞍手町長 岡崎 邦博 様

鞍手町教育委員会
教育長 外園 哲也

統合小学校の建設地について（報告）

令和 4 年 2 月 25 日付「今後の町立小学校の統合に向けたあり方について（報告）」に基づき、現状の 6 小学校を 1 校に統合することとした鞍手町立小学校（以下「統合小学校」とします。）の建設地について、以下のとおり決定しましたので報告します。

記

統合小学校は、これからの鞍手町を担う子どもたちの唯一の小学校であり、今後のまちづくりの方向性にも大きな影響を与えるものであることから、その建設地の決定は、教育委員会の最重要課題と考え慎重な協議を行いました。

現在の 6 小学校の状況に目を向けると、既に複式学級を編成せざるを得ない小学校があり学校運営上の課題が顕在化するなど、小学校の統合は一刻の猶予も許されない状況にあります。そのため、建設候補地としては、統合小学校の規模に応じた校舎・体育館・グラウンド等が整備可能な広さを有し、速やかに造成等の着手が可能となる町有地であることを要件に、鞍手中学校敷地、剣南小学校敷地、旧鞍手北中学校敷地の 3 箇所として、検討を進めました。

3 候補地ともに一長一短があり、何に重きを置くかによっては、いずれの候補地にも統合小学校の建設地として相応しい要素を備えています。教育行政を所管する教育委員会としては、これからの時代に求められる学校教育を実現し、鞍手町を担う子どもたちを安全に育むことを最優先とし、第 5 次鞍手町総合計画後期基本計画及び鞍手町教育大綱に示された町の方針、附属機関である鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会からの提言を踏まえて検討しました。

その結果、少なくともこの先 50 年、次世代の子どもたちまでが通うことになる統合小学校の建設地として、最も多くメリットを有し、最もデメリットが少ないと考えられる剣南小学校敷地とすることに決定しました。

これから、統合小学校を整備していくにあたっては、剣南小学校に児童を登校させた上で工事を施工する必要があることから、工事及び工事車両等に対する安全確保と工事期間中の剣南小学校児童の教育活動の確保に万全の対策をとった上で、子どもたちが「あの小学校へ通いたい」と思えるような小学校を整備するとともに、スクールバスの運行方法を含めて保護者の方が安心して子どもたちを通わせることが出来る取組を可及的速やかな開校に向けて進めていきます。

なお、教育委員会における各建設候補地に対する意見と剣南小学校敷地を建設地とした理由及び鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会からの第 3 次提言については、別紙により併せて報告いたします。

鞍手町教育委員会

統合小学校建設候補地に対する意見 及び 建設地決定の理由

1. 各候補地に対する意見

(1) 鞍手中学校

小中連携という点においては最もメリットが大きい。また、スクールバスの運行面においては、中学校と同じルートを運行することとなり、バス停を共有出来るなどメリットがある。

その反面として、町内全児童・生徒が通うことになり、徒歩、自転車、スクールバス、自家用車による登下校に関する安全確保に対する課題が大きい。また、現中学校の機能を維持した上で小学校を建設するには校舎が5階建てとなるなど、敷地面積が狭い。

(2) 剣南小学校

小中連携という点においては、鞍手中学校やと隣接しておりメリットがある。また保幼小の連携という点でも幼保連携型認定こども園と隣接していることでメリットがある。

通学面に関しては、剣南小学校・鞍手中学校に対する歩道等の整備が既になされている。また、スクールバスの運行面においても、中学校と小学校がほぼ同じルートを運行することとなり、バス停を共有出来るなどメリットがある。

敷地面積については、旧鞍手北中学校には及ばないが、現在の1学級35人やICTの導入など、余裕をもった学校施設の規格になったことを踏まえても、700人規模の児童数であれば十分な面積がある。

課題としては、剣南小学校に児童を登校させた上で建設工事を施工する必要がある点であり、工事・工事車両に対する安全確保と工事期間中の剣南小児童の教育活動の確保である。

(3) 旧鞍手北中学校

敷地面積の点で最も余裕があり、現在学校として使用されていないため、工事期間中の児童の安全確保にも気を配る必要がないというメリットがある。

小中連携という点においては鞍手中学校と最も距離があり、公共機関・民間の店舗等の社会との接点という点でも、スクールバスが必要になるケースが多く、課題が大きい。

通学面に関しては、古月・新延小校区からの歩道が整備されておらず、県道を含む歩道の新設のための大規模な工事が必要になる。この点についてはスクールバスを運行すれば回避できるが、スクールバスの運行（徒歩通学）範囲の設定において、保護者の理解を得られるのか課題が残る。また、徒歩通学圏内となることが想定される剣北小校区においても、町道役場・猪倉線及び中山線においても、歩道が設置されている箇所はあるものの幅が狭く、安全が確保出来ているとは言いがたい。

また、炭坑があった場所で坑道が通っており、現在も坑道部分が崩落した穴がある。坑道に対する安全対策にいかほどの費用が必要になるか、現時点では不透明な部分大きい。

2. 建設地決定の理由

旧鞍手北中学校敷地は、小学校の建設地としてみると、敷地面積の点で最も余裕があり設計の自由度も高く、広い敷地を有効活用すれば、スクールバスの受入や保護者の自家用車による送迎対応を含む様々な対策が可能であり、また、現在学校として使用されていないため、工事期間中の児童の安全確保にも気を配る必要がないという利点がある。

しかしながら、こうした利点を享受するためには、旧中学校ではあるもの、小学校としては全く新しい場所に整備することになることから、新たに通学路となる道路の整備を始め、現在も剣北小学校の通学路として課題を抱えている町道役場・猪倉線や中山線を改修するなど、統合小学校としての通学路の安全確保のためには、旧鞍手北中学校敷地周辺全体の抜本的な整備が必要になる。

また、旧鞍手北中学校敷地の最大の懸念点は坑道対策が必要なことにある。当該地には鉱害賠償登録がされており、坑道対策に係る費用は鞍手町の単独費となる上、その費用や対策に要する期間も不透明な部分が多い。児童の安全確保は基本であり、鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会からの意見にも示されている通り、「坑道がある」というそのこと自体に保護者としては不安を感じる。小中連携の観点からも鞍手中学校との距離があるなど、旧鞍手北中学校敷地を建設地とするには課題が多い。

鞍手中学校敷地は、小中連携やスクールバスの運行など、ハードとソフトの両面で鞍手中学校と連携することにより、様々な面で効率的な運用を行うことが見込まれる。

その反面として、町内の全児童・生徒が同じ場所に登下校することから、登下校に対する安全確保に課題がある。

令和4年5月時点の鞍手中学校生徒数は395人であり、特に朝の登校時間帯については、徒歩、自転車、スクールバス、保護者の自家用車による送迎と、かなり混雑している状況にある。生徒、教職員、保護者の方、地域の方の理解と協力により、開校以降大きな事故は発生していないが、これに統合小学校児童700人が加わり1,100人と約3倍の規模にふくれあがることを考えると、安全確保に対する不安は大きい。

また、現在中学校として使用していない部分の敷地面積は3候補地の中で最も狭く、少なくともグラウンドは中学校と共用する必要があり、校舎も5階建てと高層化する。

メリットと表裏一体となるが、中学生を怖いと思う小学生の心理面への負担や、小学生の遊び場としての運動場と中学生の部活動の場として運動場の調整など、学校運営に関する課題も生じる。

剣南小学校敷地は、前述の2候補地の利点を効率よく備えている。鞍手中学校とは道路を一本挟んで隣接しており、鞍手中学校の機能を完全に確保した上で小学校を整備でき、小中連携にも取り組みやすい。また、敷地面積においても旧鞍手北中学校敷地には及ばないものの十分な広さを有している。

通学面に目を向けても、スクールバスの運行については、鞍手中学校とバス停を共有できるなどのメリットがあり、通学路の整備という点でも、既に剣南小学校と鞍手中学校の通学路として一定の整備がされている。

これからの学校教育は、誰もが今後の社会を見通せない時代に子どもたちがたくましく生き抜くための力を育成するため、家庭や地域社会と連携し、学校だけでは得られない知識・経験・能力を身につける機会を確保する必要がある。

剣南小学校は、鞍手町の医療、福祉、商業などの都市機能が集約された鞍手町立地適正化計画における都市機能誘導区域にあり、加えて幼保連携型認定こども園とも隣接するなど、子どもたちの様々な社会体験の機会を確保しやすい。

また、鞍手中学校と隣接していることは、小中連携の点でメリットがあるだけでなく、保護者にとっても、義務教育機関である各々1校の小学校と中学校が一体的に整備されてい

ることがメリットになり、人口減少に歯止めをかける必要がある鞍手町の魅力の向上にも寄与すると考える。

剣南小学校敷地の懸念点としては、剣南小学校に児童を登校させた上で工事を施工しなければならない点である。工事及び工事車両等に対する安全確保と工事期間中の剣南小学校児童の教育活動を確保する必要がある。

安全確保については、設計段階から施工業者等と十分な打ち合わせを行い、万全の対策を講じる。教育活動の確保に関しては、特に体育の授業に関しては鞍手中学校のグラウンドやプールなどを共用する必要がある。統合後の小中連携も見据え、剣南小学校敷地に最も近い位置に鞍手中学校へ入場できる新たな出入口を整備するなどの工夫が考えられる。

工事期間中の剣南小学校児童へは負担をかけることになるが、総合的に考えると剣南小学校を統合小学校の建設地とすることが最適と考える。

令和4年12月16日

鞍手町教育委員会

教育長 外園 哲也 殿

鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会

会 長

鞍手町立小学校の統合に向けたあり方検討委員会から
鞍手町教育委員会への第3次提言

貴教育委員会がまとめた1校への統合との方針に対し、統合小学校の建設地に関して、検討・協議した結果について、下記のとおり提言します。

記

統合小学校の建設地については、統合小の規模に応じた校舎・体育館・グラウンド等が整備可能な広さを有する町有地であって、児童の通学面と鞍手町のまちづくりの方向性を踏まえ、鞍手町立地適正化計画における居住誘導区域内にある、鞍手中学校敷地、剣南小学校敷地、旧鞍手北中学校敷地の3箇所を候補地として検討・協議しました。

3候補地ともに一長一短があり、当検討委員会においても意見が分かれていましたが、各委員の評価を集計した結果、剣南小学校敷地が最も高い評価となりました。

統合小学校の建設地は、当検討委員会からの提言も含む、町当局との協議に基づくまちづくりの方針、鞍手中学校との関係等、小学校に纏わる様々な要素を踏まえ、鞍手町が目指す子どもを育むための最良の地を、貴教育委員会の権限と責任において決定してください。

なお、当検討委員会が出された各候補地に対する評価や統合小学校を整備するにあたっての留意点については、別紙「附帯意見」として提出しますので、建設地の決定及び今後の基本計画策定にあたり、配慮いただきますようお願いいたします。

附 帯 意 見

- 1 いずれの候補地が選ばれたとしても、統合小学校整備工事期間中の児童、生徒、地域の方の安全確保のため、また、既存の施設を利用する児童、生徒の教育活動に影響の無いよう、万全の対策をおこなってください。
- 2 学校は子どもが育つ学び舎です。子どもたちはもちろん、そこに働く教職員や学校に訪れることになる保護者や地域の方にとっても安全で安心、利便性の高いものになるよう、人や車の動線、出入口の整備等を十分に検討して計画してください。
- 3 統合小学校へは、徒歩又はスクールバスによる児童のみでの通学が基本になると思います。しかし、様々な理由により保護者の自家用車による送迎が必要な場面は、考えているよりも多く、児童の安全確保と地域住民への悪影響を回避するため、自家用車での送迎に対する対策を十分に検討してください。
- 4 小学校統合は、小規模校のデメリットを解消し教育環境を向上することが主要な目的です。既に複式学級を編成している学校がある現状を踏まえ、速やかに統合小学校を整備、開校できる点も考慮に入れ、建設地の決定と今後の取組を進めてください。